

(様式2)

平成 28 年度

自己評価及び外部評価結果(さくら)

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1590100010		
法人名	社会福祉法人 豊寿会		
事業所名	グループホームながば(さくら)		
所在地	新潟市北区長場土居下1282-1		
自己評価作成日	平成28年8月31日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.jp/15/
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	公益社団法人新潟県社会福祉士会		
所在地	新潟県新潟市中央区上所2丁目2番2号 新潟ユニゾンプラザ3階		
訪問調査日	平成28年9月26日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

グループホームに入居され、共同生活をされておられる皆様が住み慣れた地域で、日々の暮らしの中で、お一人お一人が「自分らしい生き方」をされ、自立した日常生活を営まれるよう支援する。

(1) 認知症高齢者に対する理解
認知症ケアを実践するにあたり、認知症についての一般的知識や、認知症高齢者についての個別的な知識が不可欠であることから、内部研修、外部研修等を通じて、宿院全員で認知症の理解に努める。

(2) 認知症介護に於ける質の向上
職員は、専門職として認知症高齢者の「能力に応じ自立した生活をおくるための」支援の考え方、方法、技術の習得に努める。
また、施設ケア、在宅ケアに捉われない地域ケアとしての認知症対応のあり方についても習得に努めるものとする。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

母体法人が、地域のニーズを受けて平成12年にデイサービスセンター、平成18年に当事業所であるグループホーム1ユニット(うぐいす)、平成23年には2つめのユニット(さくら)を開設した。隣接するデイサービスセンターとは行事や災害時の対応体制、看護師の協力など良い連携ができています。

事業所の建物は、木のぬくもりが感じられる造りで、窓からはのどかな田園風景を望むことができる。居室は広く、仏壇や冷蔵庫など思い思いのものを持ち込んでその人らしい居心地の良い空間となるよう配慮されている。

運営推進会議を通じて地域の情報を得、盆踊りや文化祭など様々な行事に参加しており、今後さらに地域との交流の進展が予想される。

法人の理念の「安心、安全、あったかい心」は職員によく浸透しており、利用者一人ひとりの思いに寄り添った支援が実践されている。調査当日も利用者の穏やかな様子が印象的であった。

管理者は事業所の課題を認識し、職員が意見を出しやすい雰囲気作りに努めている。職員間でも互いに指摘し合える関係ができており、コミュニケーションもとれている。管理者、職員が更なるサービスの向上に向けて意見を出し合うことで、より良い事業所となっていくことを期待したい。

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	安心、安全、あったかい心を念頭においてサービスを実践するように心掛けている。本人の希望はもちろん、ご家族、地域の方々を含めた、より身近な存在になるグループホームを目指している。	「安心、安全、あったかい心」の理念が事業所内に掲示されており、職員はこの理念を意識して日々のケアを行っている。新任研修や全体会議でも理念について話す機会をもっている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の行事、側溝掃除や防災訓練に合同で参加したりと交流に努めている。また、2か月に1回ホームで地域運営推進会議を開催しており、地域の方にも出席頂く中で情報を共有している。	運営推進会議を通じて、地域の側溝掃除や防災訓練、盆踊りに参加している。また、地域の文化祭ではスペースを設けてもらい利用者の作品展示を行っている。事業所で行う敬老会などのイベントには地域の方に声をかけ、地域との交流に努めている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域運営推進会議の際にグループホームの様子等についてお伝えするとともに、地域の行事、法人祭等を通じて地域の方に見て頂いている。今後は、日頃から地域の方々には気軽に来て頂ける様にしていきたいが現状は努力が必要である。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議においてはGHでの現状報告を行う中で、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告を行っているが、更に意見交換をしっかりと行ってサービス向上に努める。	自治会長や民生委員、地区の防災担当者、地域包括支援センター職員、近隣のグループホーム管理者に参加してもらい、テーマを決めて隔月に実施している。会議を通じて事業所への理解や地域の行事への参加が進んでいる。	運営推進会議に利用者、家族の参加が実現できていない。利用者、家族が参加できるよう方法等の検討が望まれる。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進会議、担当圏域包括ケア会議、地域密着型サービス部門会議等に参加している。市の方からはメールなどでサービス制度について情報を頂いたり、事故報告時に市へ連絡する等の対応をとっている。	運営推進会議を通じての関わりや、地域包括支援センターなどが主催する各種会議への出席により、関係づくりを行っている。市の担当者からは様々な情報をもらったり、問い合わせを行うなど協力関係を築いている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	夜間は玄関を施錠するが、それ以外は施錠を含めて拘束しないケアを行っている。	外部講師による研修を受講したり、職員間でも様々な事例について議論し、身体拘束のないケアの実践に努めている。以前、ミソンの使用があったが、必要な手続きを踏んで行っており、現在はしていない。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7	(5-2)	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	入居者には身体の不自由な方がおられるが、徘徊や、身体介助等の中で虐待が起こり得る可能性はあるので、高齢者虐待防止については職員研修等で周知を図っているが、継続して全職員への周知に努める。	外部講師による研修などを通じて高齢者虐待防止法等を学ぶ機会を設け、職員への周知を図っている。言葉かけや対応などについて職員間で注意し合っており、管理者は職員への声かけや勤務のシフトについて気を配り、ストレス軽減に配慮している。	
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	今すぐ対応すべき事例はないが、認知症高齢者に入居して頂いている以上、権利擁護に関する制度等の理解は必要と思われるので、外部研修等で学ぶ機会を持つよう努める。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時にご家族へ契約内容を説明するにあたり、不安や疑問等の確認を行いながら、契約を行っている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご利用アンケートを実施し、得られた意見を公表し、職員全体で周知している。また、その意見を日々のサービスに活かしている。	年に1回、利用者、家族へのアンケートを実施し、その結果は家族へも報告している。また、面会時には、所定の「面接記録」に本人の様子や居室の様子、職員の対応等をチェック記入してもらうなど様々な機会を通じて意見をもらい、より良いサービスにつなげるよう努めている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	人事考課等での面談を通じて意見を聞き、提案等反映に努めている。現場内での疑問等は会議でも議題にして検討する機会を設け、改善に努めている。	毎月のユニット会議では様々な意見が出されており、年2回の人事考課の面接でも職員の意見を聞いて運営に活かしている。また、管理者は職員とのコミュニケーションを大切にしたい意見が出しやすい雰囲気作りに努めている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員が集まらない中で、職員不足等厳しい職場環境であるが、出来るだけ働きやすい職場環境を作るため努力している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	人事考課表で職員一人ひとりの力量を把握し、個々に合わせた目標に取り組んで貰うとともに、法人内外研修、勉強会に参加出来るよう努める。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地域推進運営会議で他事業所の会議に出席したり、来て頂いたりして交流を図っている。その中で意見交換させて頂いた内容等は、サービスの質向上に向けた取り組みに活用している。		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	常にコミュニケーションを大切にし、本人様の、表情、仕草・行動等から本人の思っていることまたは訴えに耳を傾け、希望をできるだけ叶えられるようにしながら信頼関係を高めることに努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族が抱いておられるであろう苦労や不安等を念頭において、家族の訴えに傾聴するとともに、問題解決に向けたお話し合いや相談に努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご本人、ご家族様の意向を出来るだけ汲み取り、介護支援専門員、他職員と相談しながら本人の望んでいるサービス等が受けられるよう努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	入居者様、職員ともに日常生活を営んでいるという気持ちをもって、極力家事全般に協力頂きながら進めている。また入居者様1人1人の気持ちを大切に生活されるよう努めている。		
19	(7-2)	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	入居されると、どちらかといえば施設側で支える立場となるが、受診は極力ご家族様に行って頂いたり、問題発生時には極力ご家族に在所頂き、一緒にご本人を支えていけるように努めている。また、普段でも出来るだけ来所頂き、家族との時間を大切にいただけるように努めている。	家族へは広報誌を郵送したり、面会時や介護計画のカンファレンスの際に、事業所での本人の様子を伝え、家族と情報の共有を図るよう努めている。また、受診の付き添いはできるだけ家族にお願いし、大切な事柄は家族に来てもらって話し合っている。	広報誌や請求書を送る際に、本人の状況を伝える手紙を同封するなど、さらに家族との情報共有を密に進めていくことを期待したい。
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	馴染みの人や場所との関係継続の支援等はいま一息であるが、お友達等が気軽に立ち寄って頂ける雰囲気作りを行っている。	昔の話を聞かせてもらったり、友人の訪問を歓迎したりして、これまでの暮らしの把握に努めている。馴染みの場所への外出については、声かけはしているが積極的な支援を行うまでには至っていない。	これまでの関係が継続されるよう知人、友人と会う機会を設けたり、美容院や商店など馴染みの場所への外出など、関係継続の支援に更に取り組んでいくことを望みたい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者個々の性格等を理解し、相性はあるが、お互いが無理せず関わっていけるように配席を考えたり、コミュニケーションの仲介をするなど、関わり合い、支え合いがもてるよう努めている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	利用終了後も本人の状態は気になるところであるが、現状、他施設等をご利用されたりして係わり合いの機会がないこともあって難しい。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の会話の中から希望、意向をくみ取るようにしている。また、一人ひとりの思いを全職員が共有出来るよう、努めている。	フェイスシートを作成する際には本人、家族に思いや意向を確認している。また、日々の会話や、話のできない方については表情、態度などから把握するようにし、得られた情報は申し送りノートや業務日誌等で職員全員が共有し日々のケアに活かすようにしている。	
24	(9-2)	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	面談記録、フェイスシートや本人・家族との会話等を通じて、これまでの生活習慣等の把握に努めている。	入居時に自宅等を訪問し、センター方式のアセスメントシートを使って本人や家族から得た情報を把握している。新たな情報については申し送りノートや業務日誌に記録し、定期的なフェイスシート更新時に追記して、その人らしい生活の支援や日々の活動に活かしている。	
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	時間に捉われず、個々のペースに合わせて過ごして頂き、その中でその人なりの心身状態、有する能力等の把握に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	カンファレンス等を通じ、本人、家族、必要な関係者と話し合いながら、それぞれの意見やアイデアを現在の本人に合った介護計画に反映出来るよう努めている。	カンファレンスでの職員の意見も参考にして、担当職員と計画作成担当者を中心に介護計画の原案を作成し、サービス担当者会議で本人や家族に意見をもらって完成させている。毎月モニタリングを行い、計画作成担当者がサービス報告書を作成して、振り返りを行っている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	本人のちょっとした気づきがあれば、業務日誌等に記録して把握するようにしている。また、介護計画に対しての実践を中心に様子等を記録している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	月に1度の事業部推進会議、グループホーム会議を行い、現在のサービスの問題点や課題を見出し、より良いサービスが行われるように話し合いをして実践に繋げている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	運営推進会議や地域ケア会議等を通じ、地域の情報を把握しながら、入居者様が安心して暮らせるよう努めている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人、ご家族が希望する所に受診出来るよう、家族等と協力しながら支援している。他、緊急時は提携先の病院などを中心にご家族了解のもと、受診対応している。	本人、家族と相談しながらかかりつけ医を決めている。事業所の協力医療機関が毎月1回往診を行っていることから協力医に変更する利用者が多い。専門医についてはこれまでの医療機関を継続しており、必要に応じて医療機関へ情報提供を行っている。家族が受診同行できない場合は職員が同行して家族に報告するなど、医療機関や家族との情報共有が図られている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	入居者の状態を常に観察して判断に困ったり、不明な点等があれば医療連携のもと、デイサービスセンターの看護師に報告し、直接診てもらいながら指示をもらっている。必要であれば、早急に受診をしている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院している入居者の状態を家族との電話や直接面会で把握するようにしている。また、ケースワーカーと連絡をとり、入院時の状態報告をもらってメンテラ等に参加出来るよう、対応している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	状態の変化に伴って、病院、他施設等への入院、入居等についてご家族との話し合いを行っているところであるが、状態が更に厳しくなった場合を想定し、提携先の病院、他施設などへの情報提供などに誤りがないよう努めている。	「重度化した場合における対応に係る指針」があり、入居時に本人、家族へ説明している。看取りは行わない方針であるが、状態の変化があった時はその都度話し合い、退所後の次のサービスにスムーズに移行できるよう早めの情報提供や対応を行っている。	
34	(12-2)	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	手順表をもとに実践、練習する事で自身の力に繋げている。法人内でもAEDの使用方法など定期的に学んでいる。	急変や事故発生時の対応マニュアルが整備されており、年1回、AEDの使用法などの研修を行っている。日中は隣接するデイサービスセンターの看護師の協力が得られ、夜間帯は状況を見て救急通報や緊急連絡網により近くの職員が駆けつける体制ができている。	
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	法人内で避難、誘導、通報訓練を年2回行い、避難方法を身に付けている。また、地域の防災訓練に参加させて頂き、協力体制の構築に努めている。	年2回の避難訓練を実施している。地震や火災、夜間帯の災害も想定し、毎回、消防署員立ち会いのもとで通報、避難誘導、消火訓練を行っている。また、地域の防災訓練にも参加し、運営推進会議で今後地域からの協力が得られるよう働きかけている。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	その人なりの人格の理解に努め、人格や誇りを傷つけないような言葉掛けや傾聴を心掛けている。また、日常の暮らしにあってはプライバシーの保護に努めている。	言葉かけや対応については会議でも話題にし、利用者の誇りやプライバシーに配慮したケアを心がけている。失禁したときはさりげない言葉かけで居室で着替えてもらい、入浴時の同性介助の希望にも対応している。また、個人情報に関わる書類等は職員以外の目に触れないよう管理されている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	出来るだけ入居者の話、言葉を聞くようにし、また、具体的に声掛けをしたりして自己決定をして頂けるよう努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	入居者個々のペースを大切に、1日を過ごして頂いている。「利用者様の家」であり、職員がペースを乱すと落ち着きなくなる為、注意をしながら見守りを行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	ご希望に応じて髪を染めたり、パーマをかけたりし、自ら衣類を選んで頂く等、その人らしさを大切にしている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	盛り付け、お茶碗拭きなど出来る事はして頂いている。また、美味しく召し上がって頂けるよう極力好みに合わせて味付け等を工夫している。	利用者には、買い物や野菜の皮むきなどの食事作り、配膳、茶碗拭きなどを手伝ってもらっており、職員は手伝いや食事の場面では会話を楽しむよう心がけている。また、おやつと一緒に作ったり、行事食も楽しんでいる。利用者の状況に応じて刻み食やミキサー食等提供している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	自身で食べられない方には食事介助を行っている。水分は1日1000～1500ccを目標として、ゼリーなど形を変えたり、嚥下困難な方にはトロミをつけて提供している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、本人の力量に応じて歯磨き、うがい、歯茎マッサージ(手指ブラシ)を行って頂くが、介助が必要な方は清潔を保持出来るように支援している。また、寝るときは入れ歯を外し、消毒させて頂いている。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表に基づき、こまめにトイレ誘導を行い、なるべくトイレにて排泄して頂けるよう支援している。身体的にリハパンを使用されている方には、清潔保持に心掛けている。	全ての利用者について排泄チェック表を記入し、水分摂取量も確認して排泄パターンの把握を行い、できるだけトイレで排泄できるよう支援している。認知症により排泄物をいじってしまったり居室で排尿してしまう利用者もいるが、適切な清潔保持に努めている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	食物繊維を多く含んでいる食品を摂取して頂くようにしたり、牛乳を飲んで頂いたりしている。また、水分補給に気を配り、その上で医師と相談しながら下剤の服用も行っている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	極力一人ひとりのペースに合わせて、原則週2～3回の入浴をして頂いている。外出や拒否があり変更する事もあるが、職員の都合に合わせて入浴は避けるように努めている。	午前と午後の時間を使い、週2回入浴できるよう支援している。入浴をしたがらない利用者には言葉かけを工夫したり、入浴時は会話を楽しむようにしており、いろいろな話ができる。また、同性介助の希望があれば対応している。	多くの利用者にとって入浴は楽しい時間となっている。週2回の入浴は実現できているが、さらに利用者それぞれの希望やなじみの生活習慣等に応じて入浴回数を増やすなど今後の取り組みに期待したい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	昼夜逆転の防止に努め、日中帯は出来るだけリビングでレクリエーションや体操等をして身体を動かして頂き、夜間良眠出来るように努めている。尚、必ず日中居室で休んで頂く方もおられる。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	処方箋に従って服薬して頂き、個々の様子を注意深く見守りながらいつもと異なるようなら主治医の指示を仰ぐようにしている。薬は職員が管理しており、薬の目的等については、薬手帳や処方箋で確認をしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	唱歌、カラオケ、散歩、外出、ドライブなど一人ひとりの生活歴、身体状況をもとに、少しでも楽しく生活して頂けるよう支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	身体的に外出は困難な状況にあるが、一部の方には行事や日々の買い物で外出して頂いている。今後、何が出来るか検討していきたい。	日常的には、天気の良い日は散歩に出かけたり、買い物に同行してもらったりしており、家族と外食などにも出かけている。また、年間行事として花見やぶどう狩り等を計画したり、盆踊りや文化祭など地域の行事にも出かけている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	原則的に家族から預かったお金を本人に渡して使用する事は不可能なところもあり、誕生日会などでご本人の希望に応じた買い物をさせて頂くことで対応している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	滅多にないが家族から電話がかかって来たりした時は本人に代わって頂いている。手紙のやり取りは促がすことで可能な方もおられるので、支援をしていきたい。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	電気の明るさ、室内の温度等、利用者が暮らし易くなるように気を付けている。季節感を取り入れた物を飾ったり、ホームでの様子などを写真掲示している。	温度や湿度はエアコンや加湿器で管理し、窓の開閉で換気にも心がけている。嫌なにおいはなく、明るい共用空間となっている。また、窓辺に植物を置いたり、季節の装飾や廊下に事業所で撮った利用者の写真を貼るなどして利用者の目を楽しませ、居心地良く過ごせるよう工夫している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	皆で過ごしていても一人でいたい方には、自身のペースで過ごして頂き、仲の良い利用者同士には楽しく会話しながら過ごせるように対応している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	使い慣れた家具や小物を持ってきて頂き、自身の思うような配置にして居心地の良い居室環境を作って頂き、気持ちよく過ごせるようにしている。	使い慣れた物を持ち込んでもらうよう家族に話しており、ソファや冷蔵庫、仏壇なども持ち込まれている。また、エアコンはこまめに温度調節し、本人の状況に合わせて寝具を工夫するなど、その人らしい居心地の良い居室作りが行われている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	生活する上で危険な物はあらかじめ置く位置を決め、必要ない物は取り除くようにしている。トイレ、お風呂等の場所は目印等でわかりやすいようにしている。また、風呂場は未使用時原則鍵をかけており、中に入ることは出来ない。		

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当する項目に○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				